



2014年 秋季号

さやま市民大学同窓会発足記念

平成 26 年 11 月発行 通巻第1号

# 同窓会報

## 『同窓会報』も新しく生まれ変わりました

この4月に、SSCC(狭山シニア・コミュニティ・カレッジ)と元気大学が統合して、新たに「さやま市民大学」が発足しました。それに伴い、SSCC同窓会は6月26日に最後の総会を開き、元気大学の修了生を仲間に迎えて、新生の「さやま市民大学同窓会」へと移行いたしました。

これにより、SSCCの『同窓会 会報』は4月20日付第23号を最終号とし、新しくさやま市民大学の同窓会報を創刊することになりました。今回、お手元にお届けしたのがその第1号です。

新生同窓会ならびに、一新した会報のご愛読とご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

同窓会広報委員会

### 目次

「さやま市民大学 同窓会」が発足 「SSCC同窓会」は発展的解消 .....	2
会長就任挨拶 諸井寿夫 「存在感を一層高め、更なる発展に邁進したい」 .....	3
来賓のご挨拶 小山周三さやま市民大学学長 毛塚宏NPO法人さやま協働ネット代表理事	
元SSCC嵯峨座学長からのメッセージ	
長寿の秘訣はストレスを貯めないこと。外に出て地域とのかかわりを持つ！ .....	4
活動支援とクラブ活動 会員募集中／ 3団体と14クラブの紹介 .....	5
ご無沙汰しています —あの時の先生は今。	
第1回 ジャーナル学科 澤野久美子先生 .....	8
同窓会会則の主要部分の抜粋／同窓会の役員と役職・任務 .....	9
首都圏を襲う大地震は、いつ？ 島村英紀武蔵野学院大特任教授の講演要旨 .....	10
こんなことあんなこと 同窓会がからむニュースから .....	11
告知板・編集後記 .....	12

「さやま市民大学同窓会」は皆様の貴重な会費で運営されています。

# 「さやま市民大学 同窓会」が発足

「SSCC 同窓会」は発展的解消 6月26日に2つの総会



## ●会員135名が出席し委任状提出は312名●

SSCC（狭山シニア・コミュニティ・カレッジ）同窓会の第13回総会と、さやま市民大学同窓会の第1回総会が6月26日の12時30分から狭山市市民交流センター1階のコミュニティホールで開催された。前者は最終回、後者は設立の総会となった。出席者は会員135名で、ほかに来賓7名の方の出席をいただいた。また、委任状の提出が312名あり、合計447名は会員総数673名の66%で、総会の適格条件の過半数を満たした。

まず、SSCC同窓会総会を開催し、冒頭に諸井会長代理から、松倉一郎会長逝去への哀悼の意と遺志を引き継ぐ責務を述べられ、2つの総会の同時開催の意義として「今日の日を新生同窓会の益々の発展のワンステップとしたい」との発言があった。

ここで来賓代表の仲川幸成狭山市長と元SSCC学長嵯峨座晴夫早稲田大学名誉教授の挨拶を受ける。仲川市長からは、設立13年の歴史を経て全国に誇れる組織に成長したことへの祝辞と、「シニア世代は色々な特技や生きざまを持っていますが、これを生かし結集して力を発揮して欲しいと思います。仲間を通じて相互が研鑽できる同窓会の意義は非常に大きいものがあります。新しい大学、そして新しい同窓会が未来へ大きくはばたくことを祈っております」との言葉をいただく。そして、嵯峨座元SSCC学長からは、同窓会メンバーの各方面での多面的活躍への賛辞と謝意が語られた。

続いて、第1号議案の平成25年度の事業報告と収支決算報告を承認。決算は、収入1,249,485円（前

年繰越金517,778円）、支出1,249,485円（次期繰越金605,906円）、残高679,106円だった。第2号議案の会則の改定では、NPO法人「さやま協働ネット」ならびに「さやま市民大学」と緊密に連携しつつ新しい同窓会の益々の発展を図ること、組織はSSCCならびにさやま市民大学、狭山元気大学修了生で構成することを承認される。

## ●地域活性化に向かって力を合わせて●

次に、さやま市民大学の第1回総会に移り、第1号議案の役員選任で会長に諸井寿夫代行を、理事20名、監事2名を拍手により原案通り承認される。第2号議案の平成26年度事業計画案、平成26年度収支予算(案)を拍手で承認。予算は、収入合計1,209,906円（前期繰越金605,906円）、支出合計1,209,906円（次期繰越金366,406円）となっている。この収支は前期実績と同額の設定である。

このあとに諸井新会長の挨拶があり、来賓代表としてさやま市民大学小山周三学長、NPO法人さやま協働ネット毛塚宏代表理事から挨拶を受ける。このほかに来賓として、狭山市市民部協働自治推進課北田課長、同教育委員会生涯学習部社会教育課大寺課長、狭山市の高齢社会を考える会理事長山川昭吾様の列席をいただいた。

最後に佐野理事から閉会の言葉として、「市制60周年の記念すべき年に新生同窓会が発足した。今後は各自が健康増進を心がけ『さやま市民大学』との連携のもと地域活性化に向かって力を合わせていきたい」との発言があり総会を終了した。

## 会長就任挨拶 諸井寿夫

### 「存在感」を一層高め、更なる発展に邁進したい

大変な重責と痛感いたしておりますが、微力ながら職務を遂行していく所存です。

さて、この「さやま市民大学同窓会」は、狭山市の団体としてはかなり大きな部類に属すると思っておりますが、この「存在感」を一層高めることが必要と思っております。この存在感、つまりプレゼンスをより高めていくことが重要で、市民の皆さんから期待され、頼られるような団体へ更なる発展をと念願しております。

市民大学の修了生は多岐にわたり、経験、知識、技術をお持ちの人材が多くおられます。そんな会員に活躍の場を広げていただくために、「どのような人材がおられるのか」、「どのようなことが出来るのか」を明確にするために、そのシステムを作りたいと思っております。「人材データバンク」と呼ばれていますが、他の諸団体で管理されているものと連結（リンク）出来ればもっと効果大と思えます。

学校支援ボランティアセンター(SSVC)は、全国的にも知られてきています。政府もアクティブシニア（「団塊の世代」）への関心が深く、先日でも文部科学省から講演の招聘があり、活動内容を全国に発信いたしました。

クラブ活動部会はクラブ数も14となり、各方面での地域の連携も出来ており、益々の活躍を期待しています。直近では、ウォーキングクラブは今秋狭山市で行われる大きなウォーキングのイベントに協力し、また、グリーンクラブは東京オリンピックも視野へ入れた活動をするなど、行政の施策である協働の観点を考慮した活動の展開をしていきたいと思っております。

東京都健康長寿医療センター研究所のデータによれば、社会参加の有無はシニアの健康状態に大きく影響するとのこと。つまり、シニア自身にとって積極的に社会参加することが様々なメリットがあります。

さやま市民大学同窓会は「さやま市民大学」および「NPOさやま協働ネット」との連携を基に、更なる発展に邁進したいと考えています。

皆さまのご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。



### 来賓の皆様からのご挨拶

#### ● さやま市民大学学長

##### 小山周三様

新旧2つの総会が終了して新しい「さやま市民大学同窓会」がスタートしたことへの祝辞と多方面で活躍されている会員の皆様への謝辞をお贈りいたします。

「さやま市民大学同窓会」と生みの親である「旧SSCC・元気大学・さやま市民大学」の関係について私の考えを話しますと、1)親と子の関係は「甘えの関係」より「自立した関係」となることで本物の関係となる 2)お互いに「緊張感」を持って進んでいくことが双方にとってプラスとなる――。

ぜひ「市民大学がやれないこと」もやって頂きたい。そして、市民大学の卒業生が同窓会に入りたいと思うような受け皿となるよう期待しています。大学としても卒業生に同窓会への声かけをするつもりでいます。何か必要なことがあれば助力は惜しまないでやりますので、ご健闘を期待いたします。



#### ● NPO法人さやま協働ネット代表理事

##### 毛塚宏様

さやま協働ネットの主な業務は、「さやま市民大学」の運営と市の活性化につながるまちづくり支援ですが、同窓会とも連携して事業を進めていきたいと考えています。

以前、狭山ケーブルテレビで地域活動についてお話しをした際に、モットーは何ですかと問われ、「育縁拓町」と語ったことがあります。地域活動を通じて縁を育み、その縁を活かしながらまちづくりに取り組んでいきたいという想いからです。

その意味で同窓会は、縁を培っていく貴重な場であると同時に、まちづくりの原動力となり得る場ではないかと思えます。益々のご発展をご祈念申し上げます。



## 長寿の秘訣はストレスを貯めないこと。

### そのためには、外に出て地域とのかかわりを持とう！

この3月に最後の修了生を送り出して、14年間にわたるSSCCの名称での歴史に幕を閉じた。この学長を6年間務められた早大名誉教授の嵯峨座晴夫先生に思い出を語っていただくとともに、約4,300人(延べ)にも上がる修了生の皆様へのメッセージをいただいた。聞き手として、先生と同郷(飯田市)で、いきがい学科の受講後にスタッフとリーダーを5年間務められた山田信子さんにも参加いただいた。(構成・広報部 中岡義)

#### ■同窓会など修了後の活動がすばらしい■

私がSSCCの学長になったのは6年前の平成20年4月でした。高齢者大学とか市民大学などの名称でのシニア向け講座は世田谷など各地にあり、私は狭山の前に所沢で手伝っていました。

そして、平成14年の早大所沢キャンパスでの「いきがい学科」の開講に立ち会い、そこでの講師も務めていました。いきがい学科は、最初は早稲田サイドでテーマを決めてスタートしましたが、所沢は場所(環境)が良いと受講生から好感を持たれ、現役学生からも評判は決して悪くありませんでした。

そこで感じたことは、狭山は市民主体の企画でしたが、ほかの多くは行政からの企画が主体で、そういうところはうまくいかなかったようです。このことから、地域住民からの発想が大事だと痛感しました。また、狭山は受講料を徴収していますが、これも正解でした。取っていないところは、うまくいっていないようです。やはり、受講する側もその取り組みへの真剣さが違うのです。

私は45歳のときに柏原に引っ越してきており、14年の6月から20年6月までの6年間、狭山市の教育委員を務めました。そして、20年4月に仲川市長からの要請があり学長をお受けしました。

学長になって感じたことは、修了生メンバーの各方面での多面的な活動です。これは素晴らしいことです。私はSSVC(学校支援)の諮問委員ですが、年に一度その諮問会議で報告を受けています。「朝日のびのび教育賞」を授賞されたように、この支援活動は全国的にも高い評価をされています。修了生を核としたこの学校支援は、素晴らしい地域活動であると思います。

それから、同窓会を組織してクラブ活動や支援活動などに多くの修了生が参加して活発に活動されていることです。これも素晴らしいことです。

#### ■元気で居られるようなライフスタイルを■

高齢者が長寿になりました。今は、70歳代は「第2の青春」で、80~90歳代は「新老人」と呼ぶ人もいます。中国唐の時代ではすでに「人生百年」



といていたのです。

最近の「長寿人口」の研究によりますと、長寿県の第1位は長野で、かつて1位だった沖縄はいまや30位に落ちています。沖縄は1位のときとでは4歳ぐらいの差があります。

この両県の違いをよく見ると「ストレス」にあることに気がきます。沖縄は若い人の食べ物が変わるなどライフスタイルが変わってきたのです。このことから、余分なストレスを抱え込まないことが長寿の秘訣でもあることを念頭に入れておいてください。

長生きするには、気持ちにゆとりをもって、「継続こそ力」、途中で止めないことです。元気で居られるようなライフスタイルを確立することです。それには家に引きこもらないで外に出て、地域とのかかわりを持つことが大切です。その場で、「生きがい」と「幸福感」を学び、得ることができれば申し分ありません。かつてのSSCCがそうであったし、その延長としての同窓会や新しくなった市民大学で学び、活動することは最も有効な手段の一つだと思います。

**嵯峨座晴夫先生のプロフィール** 昭和10年長野県飯田市生まれ。33年早稲田大学政経学部卒業。55年早大文学部教授。34~50年アジア経済研究所に勤務。この間、インドに留学。62年に人間科学部教授、平成14年から早大理事を経て、名誉教授。公益法人エイジング総合研究センター理事、日本人口学会会長等を歴任。専攻は人口学、社会統計学。人間科学博士。主な著書に『エイジングの人間科学』(学文社)、『人口高齢化と高齢者』(大蔵省印刷局)、『高齢者のライフスタイル』(早稲田大学出版部)がある。

# 活動支援とクラブ活動

# 会員募集中！

市民大学同窓会の活動には2つの柱となる部会があります。活動支援部会とクラブ活動部会です。この11月現在で支援には3つの団体、14のクラブがあります。その目的は、活動支援部会はボランティア活動により地域に貢献すること、クラブ活動部会は学習やスポーツ、趣味などを通じて各自がいきがいを持って自助自立を図ることです。

- 会員はどれにも自由に入会できます。
- 同時に2つ以上に入会することもできます。
- 関心がありましたら、「連絡先」にお電話をください。
- また、同好者と新しいクラブを立ち上げることもできます。

## 活動支援部会 3団体

### 学校支援ボランティアセンター(SSVC)

代表者／諸井寿夫 支援者数／約400名(男女半々)  
入会金・会費／なし  
連絡先／事務所(狭山台中南棟2F) 04-2927-1395  
電話受付 月・火・金 午後1時～4時

市教育委員会の委託事業であり、ボランティアとして学校や先生の補助的な支援をする組織である。平成19年4月に開設され、今年で8年目を迎えている。現在は市内の小中25校に、算数(数学)、国語、理科、英語を中心とした授業支援を主に校内美化や登下校の見守り活動を行い、学校から高い評価を受けている。

現在の支援者数は400名を超え、年齢は60歳代と70歳代が多くなっているが、子どもたちから「元氣」を貰って頑張っている。25年度の支援時間数は9,180時間と過去最高となった。

平成23年2月には、地域と連携した支援活動が高く評価され、「朝日のびのび教育賞」を受賞したことなどから、今では県内だけでなく全国的に知名度が高くなっている。

### パソコン支援の会

代表者／森 博 会員数／28人(男性13人・女性15人)  
入会金／なし 年会費／1,000円  
連絡先／森 博 04-2952-7954

市内の公民館を会場に公民館と共催で、主に初心者クラスのパソコン教室を開いている。

今年で13期に入り、これまでに700人近くの修了生を送り出している。

今期の会場は水野、狭山台、広瀬、富士見の4カ所。期間は5月から翌年2月までの10カ月で、授業は月に2～3回。ワード、エクセル、インターネットの基礎を学ぶ。

### 福祉支援(チョボラの会)

代表者／大内輝夫 会員数／15名(男性2・女性13)  
入会金 500円 年会費／500円  
連絡先／大内輝夫 090-4416-3619

チョボラとは「ちょっとしたボランティア」のことで、傾聴を目的とした無償ボランティアグループである。平成17年12月に立ち上がり、現在の活動場所は6カ所。月に1～2回、1回1時間～2時間、会員相互の親睦を深めながら、「細く長く」をモットーに無理のない活動を目指している。

施設を訪問して、歌を歌ったり、簡単な遊戯をしたり、洗髪後にドライヤーを掛けながら話の相手をする。また、認知症の人の施設では、お客さんとして訪問し、お茶を飲みながら話し相手をしている。25年度は6カ所の施設で138日間に227名を対象に支援した。



# クラブ活動部会 14クラブ

## ウォーキングクラブ

代表者／木全英雄 会員数／135 (男性62・女性73)  
入会金／1,000円 年会費／2,000円  
連絡先／木全英雄 04-2955-0640

主な活動／「安全で・楽しく・和やかに」をモットーに、自己責任を徹底。全体行事；年11回(県内および関東・甲信)、各行事の下見徹底・実施と事後報告確認(隔月)。行事催行時(体操、注意事項、ストレッチ等)。広報活動(会報7月、3月)。

## 太極拳クラブ

代表者／戸坂光延 会員数／32 (男性19・女性13)  
入会金／1,000円 月会費／1,500円  
連絡先・会長／戸坂光延 04-2957-4343

主な活動／諸行事見学(8月28日健康太極拳&フリーウオーク。9月6日・13日・20日さやま市民大学いきがい学科太極拳授業補助)。練功実施(稽古の徹底、部分稽古の徹底)。諸行事参加(10月26日所沢市民フェスティバル)。

## いきがい学科の会

代表者／鈴木強 会員数／107 (男性62・女性45)  
入会金／なし 年会費／500円  
連絡先／鈴木強 04-2952-8617

主な活動／本会は前 SSCC「いきがい学科修了生並びに余暇開発学科修了生」及びそれに準ずる者で組織し、会員相互の親睦及び世代間ネットワークの構築を図ることを目的とした。

ついでには高齢者の生活・健康に関する講演・視察・懇談・懇親会等を企画し、また世代間交流事業にも企画・実施する事とし。初年度(25/10～26/9)は、日銀・貨幣博物館見学会(26/1と4の2回)、26/7講演とシンポジウム「首都圏を襲う大地震」を同窓会規模に格上げ共催実施し市民の防災意識高揚を訴求した。26/10早大所沢キャンパス祭に参加し世代間交流を目指して現受講生とコラボして参画した。

## グリーンクラブ

代表者／遠藤茂廣 会員数／81 (男性71・女性10)  
入会金／なし 年会費／500円  
連絡先／高羅尚典 04-2959-5836

主な活動／定例コンペ；春季4月、秋季10～11月。狭山市ゴルフ大会(7月、11～12月、3月)。狭山市民ゴルフ大会(10月)。埼玉県市町村対抗ゴルフ選手権(6月予選)。4市(狭山・日高・入間・飯能)対抗ゴルフ選手権大会(4月)。ボランティア参加。

## 囲碁クラブ

代表者／山下邦夫 会員数／31 (男性30・女性1)  
入会金／なし 年会費／1,200円  
連絡先／山下邦夫 04-2958-0906

主な活動／当クラブの「趣旨及び目的」は、我々老人にとって老後の人生を楽しく有意義に過ごすことを目的にしている。それには社会生活でより大事な人間関係を育み、残された力を地域社会に少しでも貢献できたらと思っている。このような趣旨で毎年次のような活動を会員相互で協力しながら続けている。

定例月例会(月2回、年24回、中央公民館)。狭山市囲碁連盟等主催の諸大会に参加。4月十段戦、6月個人戦、9月団体戦、12月4市囲碁交流戦等)。老人養護施設訪問。市民大学文化祭参加等。

## パソコンクラブ

代表者／橘敬治 会員数／19 (男性11・女性8)  
入会金／1,000円 年会費／5,000円(前期2,500円、後期2,500円)  
連絡先／橘敬治 04-2958-7521

主な活動／例会；月1～2回、年13回(狭山台公民館。Word&Excel 演習問題使用、講師持ち回り前半・後半各80分2コマ制基本)。随時 Azpaint、Jtrim、Powerpoint、Media Player、GIMP等使用、インターネットは各自接続済。



(ウォーキングクラブ 25年6月行事 森林公園)

## 手打ち蕎麦・うどんを楽しむ会

代表者／堀越圭二 会員数／19 (男性8・女性11)  
入会金／なし 年会費／2,000円程度 (但し要実費)  
連絡先／堀越圭二 04-2953-5468

主な活動／蕎麦グループ;各人課題を持ち手打ち技術の向上を図る。うどんグループ;①4月9日 武蔵野うどんの基本を ②10月～3月 各地のうどん及び旬の応用調理を学ぶ。その他知識、味覚向上のための食べ歩き。介護施設ボランティア。

## 人間科学 研究会

代表者／山田信子 会員数／13 (男性8・女性5)  
入会金／なし 年会費／1,000円  
連絡先／山田信子 04-2954-2086

主な活動／輪読会;月2回(中央公民館)、主として脳の機能に関する啓蒙的な図書(主に新書版)。新しい知見を学び会員相互の体験交流を深めている。現在のテキスト:和田秀樹著『「思考の老化」をどう防ぐか』を勉強中です。次回は祖父江逸郎著『長寿を科学する』を予定しています。

## 卓球 クラブ

代表者／小林誠一 会員数／22 (男性11・女性11)  
入会金／1,000円 年会費／3,000円  
連絡先／小林誠一 04-2959-6830

主な活動／例会(練習) 月4回(週1回)。狭山台体育館および入曽公民館)。狭山市卓球連盟へ加入・活動参加。公民館活動。市民大学文化祭参加。安全管理活動(練習前の体操・ストレッチの励行)。

## SC 写真 クラブ

代表者／戸田尚一郎 会員数／21 (男性17・女性4)  
入会金／なし 年会費／12,000円  
連絡先／戸田尚一郎 04-2959-3412

主な活動／定例会;奇数月 例会(年6回)偶数月 撮影会(年6回)。その他 作品展の開催。;公民館文化祭参加、狭山中央病院展示。講師 渡辺圭三先生。



## うた声 さりね

代表者／高須晴子 会員数／22 (男性2・女性20)  
入会金／なし 年会費／2,000円  
連絡先／高須晴子 04-2958-5176

主な活動／練習等;年21回(月1～2回)。本年の歌14曲。施設訪問。公民館市民文化祭。広瀬公民館文化祭。公民館古本市。公民館各種会議。菅原一丁目敬老会。クリスマス会。ウオーキング。同窓会関連諸行事(総会、文化祭等)ほか。



## 古典芸能 愛好会

代表者／鈴木強 会員数／21 (男性9・女性12)  
入会金／500円 年会費／500円  
連絡先／鈴木強 04-2952-8617

主な活動／落語を中心に鑑賞;奇数月(新宿末広、国立演舞場等)11月総会、同窓会関係行事。

## 歴史 クラブ

代表者／村越正治 会員数／79 (男性54・女性25)  
入会金／500円 年会費／2,000円  
連絡先・会長／村越正治 04-2959-2862

主な活動／★定例会;毎月1回元気プラザにて開催、グループ・個人の調査、研究等の報告・発表、講師による講座等を実施。★定例見学会;年2回(5月、10月)実施。★グループ活動;関心のあるテーマを対象にグループ(現在8つ)を作り(会員は自由に参加)、勉強会、調査、探訪を毎月実施。★同窓会関連諸行事に参加。

## 吹矢 クラブ

代表者／野地秀多朗 会員数／21 (男性16・女性5)  
入会金／1,000円 月会費／500円  
連絡先／野地秀多朗 04-2950-5818

主な活動／練習;毎週木曜 月3～4回 年間39回(狭山台公民館・西武ハイツ集会所)。地域自治体との連携で体験会実施。他団体との交流会(9月健康吹矢クラブ)。協会主催の試合に参加。

# ご無沙汰しております —あのときの先生は今。

## 第1回 ジャーナル学科 澤野久美子先生

SSCCの開講は平成12年10月ですから今年で14年目に入りました。23年4月開設の元気大学を合わせれば、この間の修了生は4,300人ほどにもなります。あの時お世話になった講師の先生方は今、どうしておられるのでしょうか。お訪ねしてお話を伺いました。第1回はジャーナル学科の澤野久美子先生です。

聞き手・中岡義（ジャーナル学科第8期修了）

●ご無沙汰いたしております。お元気でなによりです。先生はジャーナル学科の開講からずっと担当されていると伺っていますが。

はい、平成14年4月のジャーナル学科開講とともに担当させていただきました。ただ、これまでに1年間の休講がありました。

●そうすると、今年3月の修了生は11期生だったのですね。この間の修了生は合わせて何人ぐらいになりますか。

220名になります。第1期生に米田香子さんがいらっしゃいますが、修了とともに、ずっとリーダーをやっています。人生の先輩でもあり、米田さんがいなければここまでやってこれなかったと思うほどに助けていただき、感謝しています。

●講師を長く務められる魅力は何でしょうか。

ジャーナル学科は「今」を扱う講座ですし、経験豊かなメンバーと共に学ぶので、毎日が新鮮であり私自身の学びにもなります。また、受講生の生き様に触れ、歳を重ねることが素敵なことに思えることも魅力です。

●授業で工夫されていることはありますか。

修了後自力で活動できるように、体験型学習にしています。個人の制作物もありますが、グループで協働することを主に、能動的に取り組み、積極的に話し合い、プレゼンテーションすることなどにも力を入れています。何事も企画ありき。発想とそれを実現する具体策をセットで考えていただいています。

●先生はいつお目にかかってもお変わりなく、パワフルで颯爽としておられます。若さを保つ秘訣は何でしょうか。

1つあげれば「呼吸法」でしょうか。ゆっくりと呼吸することで、脳の司令塔といわれる前頭前野の血液が増えて、ワーキングメモリや意欲が高まるといわれています。

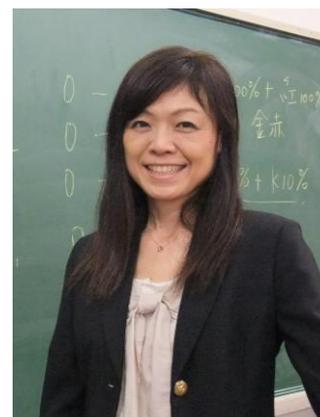
●月並みですが、ご趣味などは。

大好きな海外旅行をしたり、近郊にハイキングを

して温泉セラピーで気分転換をはかっています。元気をつけに、新大久保まで参鶏湯を食べに行くこともよくあります。

●先生は「シニアの元気なまちは暮らしやすい」が持論と伺ったことがあります。その真意は何でしょうか。

狭山におじゃまして、SSCCのスタッフさんや受講生がとにかく元気。はつらつとしている。そしてその活動が大事にされている。シニア基準のコミュニティがあることは、弱者への配慮がなされていて、心身のバリアフリーを感じたからです。体の老いは歩けなくなるところから、精神の老いは会話がなくなるところから始まるといわれますが、それを阻止できるのは、だれもが参加できる場と、ありのままの自分を受入れてくれる仲間との活動ではないでしょうか。それがSSCCだったように思います。



●そういう意味では、今の狭山市の状況は。

活動拠点ともなる学び舎と、活動のきっかけとなる講座が用意されていて、素晴らしい環境ですね。

講座修了後は、地域の課題解決のための活動をされている方が大勢います。シニアの小・中学校での支援や、子どもの遊び場づくりの支援などは、薄れつつある世代間の交流でもありますし、文化の伝承でもあるので貴重な機会だと思います。

さらに、自然にも恵まれていて、地産地消や雑木林の保全など、狭山ならではの活動も多いと思います。主婦仲間と狭山の野菜で特産品を開発して販売している修了生がいらっしゃいますが、コミュニティ・地産地消・情報発信・次世代育成など、地域に必要な要素をいくつも実現していると思います。

そんな良さを生かせるさやま市民大学には、子育て中のお母さんや社会参加に恐怖感を持っている若者にも安心して受講していただけたらいいですね。修了後はあたり前のように、だれもが住みやすいまちづくりに参加していく。ジャーナル学科で狭山ケーブルテレビの番組作りのお手伝いさせていただいているのも、まちづくり参加の事例です。

●先生は開講以来の修了生を一同に集めて『狭山地域ジャーナリストの会』を結成して、狭山市のよろず情報発信活動ができないかとお考えとか。すこし詳しくお聞かせください。

地域ジャーナリストとは、地域の情報を拾って発信するわけですが、そこにある課題を分析して、課題解決の提案をしたり、解決するしくみ作りをすることも使命だと思っています。マスメディアは民意をリードすることですが、地域ジャーナリストは共に考えて活動する人です。

●「情報発信活動」とは、具体的には。

例えば、買い物難民がいらっしやるとします。まずはその方の存在を発信。次に解決のため、買い物代行ができないか、代行してくれる人はいないか、代行システムはどうしたら有機的に働かなどを検討します。次にそれを発信し、問題意識を持つ方

と解決に参加してくださる方をネットワーク化するチームが「狭山地域ジャーナリストの会」の構想です。情報発信と、人と人とをむすぶのが役割でしょうか。

●最後に、もう1つお尋ねします。これまでの修了生の皆さんに一番伝えたいことは何でしょうか。

学ばれた内容は異なっても、「やりたい」という気持ちはどなたも同じだと思います。その気持ちを維持し続けられるのは、ゆるい組織あってこそではないでしょうか。あまり縛りが強いと疲れてしまうでしょうし、制限がないのもおもしろみがないでしょう。そう考えると、同期会や同窓会では会員になるだけでなく、クラブ活動や委員会活動などへの参加義務を作ったらどうかと思います。社会の課題は、人を愛し、地域を愛し、自然を愛し、それぞれの良い部分を見つけて、他の人にもその良さを紹介してあげられる人の育成だと思います。その学びがSSCCにも元気大学にもありましたから、もっと力を提供して欲しいです。みなさんの活動は個人の生きがいであり、社会に不可欠なものだと思います。

●長時間ありがとうございました。今後ともますますお元気で、さやま市民大学の発展にご尽力くださいますことをお願いいたします。

## 同窓会会則の主要部分の抜粋

総会では、同窓会会則が元SSCC同窓会会則を一部改定して承認された。ここに主要条文を抜粋する。

(第3条 組織)

本会は、さやま市民大学修了生及び狭山シニア・コミュニティ・カレッジ修了生並びに狭山元気大学修了生を以て組織する。

(第4条 目的)

本会は会員相互の親睦と健康の増進を図り、習得した学びの成果を地域社会の活性化に寄与することを目的とする。

(第5条 事業)

本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 同好の会員による各種の支援活動及びクラブ活動や勉強会、発表会の開催
2. 修了後の活動状況の把握と情報交換、並びに地域社会との連携を図り共同事業を行う
3. 活動の場の紹介・斡旋・助言・相談・支援
4. 各種事業の開催及び参加
5. 狭山市などからの委託事業
6. その他、本会の目的達成に必要な事業

(細則 クラブ創設の手続き)

主宰する同窓会員は次の書類をクラブ部会長宛てに提出するものとする。

1. クラブ創立の趣意書
2. 会員名簿（5名以上が参加し、原則として同窓会会員に限る）
3. 会則（名称・目的・事業内容などを記載）

クラブ部会長は申請の書面を役員会に提出しその承認を得てクラブを創設出来るものとする。

## さやま市民大学同窓会の役員と役職・任務

6月26日の同窓会第1回総会で、理事20名と監事2名の22名が選出された。任期は2年で、再任は妨げない。役員と役職・任務は次の通りである。（井口孝之氏は9月24日付）

理事 諸井寿夫（会長）

中嶋亨（副会長・事務局長）

鈴木強（副会長・クラブ活動部会長）

野地秀多朗（事務局次長）

氏原博明（会計）

高羅尚典（会計）

庄司一之（活動支援部会長）

水村美江子（活動支援副部会長）

山田信子（クラブ活動副部会長）

井口孝之

印牧秀子

杉本富夫

谷川勝利

中岡義

中山啓子

橋本光明

花倉ケイ子

早川真一

森博

山下則雄

監事 大木浄

坂井敬一

# 首都圏を襲う大地震は、いつ？

さやま市民大学同窓会の発足を記念したシンポジウムが同会主催で7月23日の午後に市民交流センターで開催された。テーマは「首都圏を襲う大地震と噴火」。第一部は基調講演で、講師は島村英紀武蔵野学院大特任教授。第二部はシンポジウムで、島村教授をコーディネーターに狭山消防署や埼玉石心会病院、市教育委員会、自治会防災会などの代表がパネラーとして参加して「大地震 —その時あなたはどうしますか？」を話し合った。

【講演要旨】 実は、首都圏の地震は大正関東地震（1923年）以来、不思議に少ない状況が続いています。厳密に言えば、大正関東地震後6年間だけはマグニチュード（M）6クラスの震度5の地震が東京で2つありました。しかし、それからは大地震がぱったりなくなり、約60年後の1985年の茨城県南部に起きたM6.0の地震まで震度5を感じたのは一度もなかったのです。その後も東京都千代田区では震度5が東日本大震災（2011年）と今年の5月5日の伊豆大島近海の地震を入れても4回しかないのです。



だが、大正関東地震以前は違いました。江戸時代から大正時代には、地震ははるかに多かったのです。江戸時代中期の18世紀から24回ものM6クラス以上の地震が襲ってきました。平均すれば、なんと6年に1度にもなります。

## ■大正関東地震以降90年も地震がないのは異例

元禄関東地震（1703年）という大地震がありました。大正関東地震の「先代」で、この地震の後も数年の間だけ大地震が続いたあと、ぱったり地震がなくなった期間が70年ほど続いたのです。そして、その「休止期間」のあとに地震が増えて、24回もの大地震が襲いました。

大正関東地震から90年たちます。もし、元禄関東地震のあとで何かの理由で「休止」したとすれば、やはり海溝型地震である大正関東地震でも同じ理由で「休止」した可能性があります。今は「休止」がそろそろ解けだしたとしても不思議でない時期に入っているのです。地球物理学的に考えれば、首都圏が大正関東地震以来「静か」なのは異例なのです。むしろ、もっと地震が多いのが普通です。

江戸時代から現在までの首都圏の地震活動を見ると、不思議なことに関東地震以来の90年間は異常に静かだったことがわかります。たとえば東京では、この間に震度5は4回しかありません。しかし、その前の300年間はずっと多かったし、被害地震も多かったのです。実は元禄関東地震の後も70年間、静かな期間が続きました。首都圏は一時の静穏期間が終わって、いわば「普通」の、つまりは今までよりは活発な地震活動に戻りつつあるのです。

## ■富士山が将来も噴火しないことはあり得ない

大地震には火山の噴火と密接に関係します。この両者はともにプレートが海溝で衝突することで起きる現象ですから、何かがつながっているにちがいないのです。海溝から潜り込んでいった太平洋プレートが起こす地震と、そのプレートの潜り込みで生まれたマグマが上がってきた火山なのですから、関連があつて不思議ではありません。だが、残念ながら現在の科学では地震と火山がどう関係しているかは解明されていないのです。

富士山の最後の噴火は1707年（宝永4年）のことでした。以後、300年以上も噴火していません。噴火をくり返してきた富士山でこれほど長い休止を経過したことはないのです。たとえば、平安時代は約400年間でしたが、そのうちの初めの約300年間に10回も噴火しています。地球物理学から見れば、富士山がこのまま将来も噴火しないことはあり得ないのです。

宝永地震は、今怖れられている南海トラフ地震の先祖の一つとだと考えられています。南海トラフ地震が襲ってくる前か後に、火山がまた噴火するのでしょうか。

島村英紀教授のプロフィール 昭和16年生まれ。昭和39年東京大学理学部物理学科卒業。44年地球物理学博士課程修了、理学博士。47年北海道大学助教授（地球物理学教室）。54年教授、北大海底地震観測施設長（初代）。平成10年北大地震火山研究観測センター長（初代）。16年国立極地研究所所長。現在、武蔵野学院大学特任教授。

# こなと あなと

## 同窓会がからむニュースから

■**いきがい学科受講生 早大キャンパス祭に参加** 早大の所沢校舎では10月26日に大学祭である『早大所沢キャンパス祭2014』が開催されたが、これにいきがい学科の受講生や修了生が参加した。



さやま市民大学（元SSCC）いきがい学科の受講場所は早大所沢キャンパスだが、講師も同大学の教授陣を中心に編成されていることもあり、今年、初めて参加を申請し認められた。会場は1教室の割り当てがあり、展示パネルや写真集、冊子、手作りの凧を教室にロープで吊りに配するなど、趣向を凝らした展示を行った。来訪者は記帳した方だけで100人を超え、同窓会いきがいの会の会員も説明などの支援に参加した。

■**歴史クラブ「高麗郡建郡1300年の歴史」** さやま市民大学同窓会の歴史クラブでは、9月10日に元気プラザで「高麗郡建郡1300年の歴史的意義」という演題で公開講座を開催した。講師は高麗郡建郡1300年記念事業委員会会長の大野松茂氏。高麗郡の中心は日高市で狭山市と隣接しており、かつて市内の入間川北側の地域は高麗郡であったこともあり、当市にとっても関係の深い郡である。

当日は、歴史クラブ定例会を13時半から行い、その後、14時半から公開講座に移った。受講者は約75人だった。

<講話の要約> 高麗郡は霊亀2年(716)、甲斐、駿河、相模、上総、下総、常陸、下野7カ国の高麗人1,799人を武蔵国に移して創設された。高麗郡建郡1300年に当たる平成28年(2016)に記念事業が計画されており、事業には、日高市を中心に8市3町が参画している。

高麗郡について、建郡の経緯、郡の位置、発掘調査から判明した土地の開発・生活の様子と高麗郡役所の想定地、初代郡司高麗王若光(こまのこきしじゃっこう)と高麗神社、日本に大きな影響をもたらした渡来文化・技術、古代寺院跡(1つの郡に3つも建立されたのは異例)などについて懇切に説明された。

■**「大地震シンポ」に200人近くが来訪し 好評** 7月23日に実施した同窓会発足記念のシンポジウムに来訪されたのは198名で、うち会員はほぼ4割だった。ほかに、役員等主催者側が23名、パネラーが5名、来賓は松本教育長など10名で、全体では236名の参加者があった。

終了後、来訪者にアンケートを求めたところ(基数は53)、性別では男性がほぼ7割、年齢では60代と70歳以上がともに45%強で、両者を合わせた60歳以上が9割を占めた。また、基調講演(10頁参照)については、「良く理解できた」と「ほぼ理解できた」がともに45%で、合わせると9割になった。パネルディスカッションについては、「あまり参考にならなかった」が約1割あった。

自由意見では、「大地震についての専門の先生のお話を興味深く拝聴いたしました」、「共助組織が大事であると感じました」、「1つ残念だったのは、狭山での講演でしたら、立川断層帯が狭山の近くの飯能まで伸びているのですから、狭山市に影響のあるなしに関わらず、もっとそれに触れてほしかったと思いました」などがあった。

■**『Well-being ウォーキング in 狭山』に協力** 狭山市の市制施行60周年記念の一環として、「多くの市民が狭山市を歩いて健康で幸せになろう」をキャッチフレーズに、ウォーキング大会が11月2日に実施された。参加者は2,500名に上った。この大会の運営などに同窓会ウォーキングクラブの会員が16名、市民大学トレッキング学科の20名などが協力した。

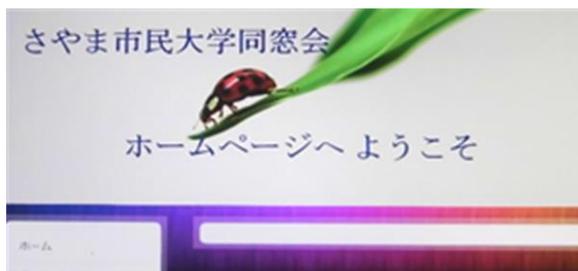
集合は新狭山駅北口の中原公園(あじさい公園)で、心配された天候も晴れ上がる。9時から開催行事があり、15分過ぎから2コースに分かれ順次スタートした。

2つのコースは、①約10kmコース。新狭山駅→奥富神社→かかし祭り会場→サンパーク奥富→入間川河川敷→柏原→サイクリングロード→広瀬橋→稲荷山公園→入間基地脇→狭山市駅。②約6kmコース。新狭山駅からサイクリングロードまでは①と同じで、ここで別れて→昭代橋→市民会館→狭山市駅。



【写真上】新狭山駅北口の中原公園を大勢の見送りを受けてスタート 【下】コースの要所にはウォーキングクラブ会員などが案内に立った(入間川河川敷で)

## ●同窓会の「ホームページ」を開設しました●



このホームページは、同窓会会員はもちろんのこと狭山市民など多くの皆さまに同窓会の活動を知っていただくために情報発信します。

2014. 10. 1 さやま市民大学同窓会 広報委員会

10月1日に同窓会のホームページを開設しましたのでご案内いたします。

SSCCや元気大学、市民大学を修了された同窓会会員の皆さまは、それぞれの得意分野で地域の活性化に貢献されたり、趣味の世界を広げて新しい生きがいがづくりに取り組んでおられます。

そんな皆さまの活動や同窓会の動きを適宜発信することで、狭山の元気なシニアの連携なり親睦を深めていただく一助になればと念じての「ホームページ」の開設です。

開設したばかりで未熟な内容のうえに、会員の皆さまへの周知も徹底しておりません。今後は各部会の協力をいただきながら内容の充実に努めていきますので、皆さまのご支援、ご協力をお願いする次第です。

なお、同窓会ホームページへのアクセスは次のとおり簡単な操作でできますので、ぜひご覧いただき、意見等をいただければ幸いです。

### ★アクセスの手順

- ① ヤフー、グーグル等の検索欄に「さやま市民大学同窓会」と入力して、「検索」をクリックする。
- ② 「同窓会概要ーさやま市民大学同窓会ホームページへようこそ」をクリックする。

## 告知板

### ●「さやま市民大学学園祭」が開催されます

11月28～30日の3日間、「さやま市民大学学園祭」が狭山元気プラザ（旧狭山台北小学校）で開催されます。多くの皆様のご来訪をお待ちしています。

### ●同窓会の「ロゴマーク」が決まりました

同窓会ではこのほど、ロゴマークを制定しました。

このマークは、同窓生同士のつながりに加え、市民大学の修了生たちが狭山市民や地域をつないでいくことをイメージした「円環」の形を使ったマークです。



### ●『さやま市民大学 news』を創刊

さやま市民大学では、受講生だけでなく広く市民の皆さまに市民大学の存在を知っていただくために、『さやま市民大学 news』を創刊しました。第1号は9月1日付で、学部・学科の紹介などが掲載されています。



### 【編集後記】

■9月27日の御嶽山の噴火で真っ先に思い出したのは、その2カ月前の7月23日に実施した同窓会発足記念シンポジウムでの島村英紀武蔵野学院大特任教授の基調講演でした。タイムリーといえば不謹慎かもしれませんが、ぜひ多くの方にお伝えしなければと、急遽1ページを使って要旨を掲載（10頁参照）しました。大地震と火山噴火の因果関係はまだ解明されていないとはいえ、ほぼ間違いないと思えるこの「仮説」を知ること、私たちの防災への心構えは、また違ったものになると思えたからです。

■新生同窓会報には、これまでの会報のイメージを一掃しようと試みたのがこの創刊号です。縦書きを横書きに、モノクロをカラーにしました。そして、なんとか同窓会への関心をお持ちいただけるような編集をと心がけながらも、なかなか具体化できないもどかしさもありました。今後は会員の皆さまのご意見を伺いながら、内容を充実させていきたいと思っています。ご協力をお願いいたします。

■前号（SSCC『同窓会会報』第23号）の故松倉一郎会長関連記事にいくつかの誤りがありましたことをお詫びいたします。今後は間違いのないように、複数の目で細心の注意を払っていく所存です。（G）

### さやま市民大学同窓会『同窓会報』 2014年秋季号（さやま市民大学同窓会発足記念）

□発行日 2014年（平成26）11月15日

□編集 さやま市民大学同窓会広報委員会

□発行 さやま市民大学同窓会事務局

〒350-1380 狭山市入間川1-23-5 狭山市教育委員会 社会教育課内  
事務局／電話 090-3514-6002

E-Mail; nakajima.t@ae.auone-net.jp